

出荷制限に伴う肥育牛管理について

宮城県畜産課，宮城県畜産試験場

平成23年7月

すでに出荷時期を迎えている牛について、出荷再開まで飼いつけるためには、

- ・ **摂取エネルギーを抑えつつ、乾物摂取量を確保し、体重を維持すること**
- ・ **健康に管理すること**

がポイントになると考えられます。このためには下記のことにご注意してください。

維持に必要な養分要求量を給与

・ 摂取量を確保する

通常の出荷前に比べ

- ① 配合飼料を抑える（参考：表1）
- ② 粗飼料の給与割合を高める
- ③ エネルギーが低く嗜好性の高い発酵飼料等（例 ビール粕等）を選択・併用する。（採食量が低下している場合）。

体重の増加を最小限にとどめる

表1 肉用種肥育牛の維持に必要な配合飼料の量

稲ワラを1kgを併用した場合			輸入ライグラスストローを1kgを併用した場合		
体重(kg)	配合飼料の量(kg)		体重(kg)	配合飼料の量(kg)	
	去勢	雌		去勢	雌
550	－	4.6	550	－	4.2
600	5	4.8	600	4.6	4.6
650	5.2	5.2	650	5	5
700	5.6	5.6	700	5.4	5.2
750	6	5.8	750	5.6	5.6
800	6.2	6.2	800	6	5.8
850	6.6	－	850	6.2	－

* TDN70%、CP11%（原物中）の配合飼料を給与した場合の例

** 飼料要求量は日本飼養標準肉用牛（2008年版）より算出した。

・ 代替飼料の利用

他研究機関での報告によれば、「15ヶ月齢以降、イタリアンライグラスストローで稲ワラを全量代替しても、格付成績に有意な差が見られません」でした。

なお、日本飼養標準によれば稲わらとストロー類のβ-カロテン含量は、ほぼ同等と考えられます。

健康に管理する

①ビタミンの補充

ビタミン A 欠乏症状を示す個体があれば、同月齢の群全体に対しビタミン A を一回に 100~150 万単位程度を筋注か経口投与してください。

また、飼料中には一日あたり 5000 単位程度添加してください。ハイキューブであれば 100~200 g を 3 日~1 週間程度給与し、様子を見てください。

②肝機能の強化

③カビ吸着剤、生菌剤等の利用

肝機能を改善するため、ウルソデオキシコール酸やパントテン酸カルシウム剤などの強肝剤の使用や、ルーメン環境の変動による影響を最小限に抑えるため、ゼオライトのような吸着剤、乳酸菌製剤などの生菌剤等の利用も効果的と考えられます。

暑熱対策

・新鮮な水の給与

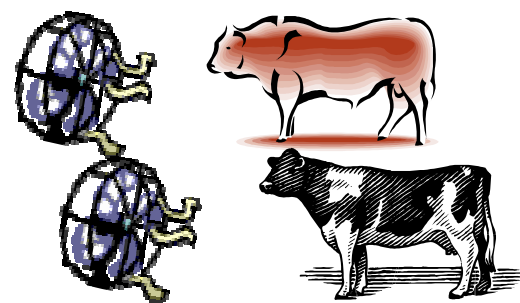
- ①低温で新鮮な水がいつでも飲める
- ②水槽に陽が当たらないように管理
- ③水槽の掃除を徹底

・飼料給与回数と給与時間

- ①飼料給与回数を増やす
- ②1 回の給与量を調整し飼料の食べ残し・変敗を最小限に抑える
- ③昼間より、夕方から夜にかけての給与量を多くする
- ④粗飼料の摂取量を確保する。食い込みの悪い場合は切断長の短いものを併用する。

・牛舎内の温度上昇を抑え、体感温度を下げる

- ①牛体への直接送風
- ②換気（一定方向へ空気が流れるように）
- ③屋根や牛舎周囲に散水（牛舎内温度が 2℃低下する）
- ④遮光ネットで直射日光をさえぎる



※ 個別の詳細な対応や、稲わら代替飼料の利用については、下記連絡先にご相談下さい

県の関係機関

- | | | | |
|--------------|--------------|-------------------|--------------|
| ○ 宮城県畜産課 | 022-211-2853 | ○ 宮城県畜産試験場 | 0229-72-3101 |
| ○ 大河原家畜保健衛生所 | 0224-53-2513 | ○ 仙台家畜保健衛生所 | 022-257-0921 |
| ○ 北部家畜保健衛生所 | 0229-91-0729 | ○ 栗原地方振興事務所 畜産振興部 | 0228-22-2487 |
| ○ 東部家畜保健衛生所 | 0220-22-2349 | ○ 東部地方振興事務所 畜産振興部 | 0225-95-1438 |

農業共済組合連合会（NOSAI 宮城）

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ○ 県南家畜診療センター | 0224-25-4565 | ○ 中央家畜診療センター | 0229-28-2581 |
| ○ 県北家畜診療センター | 0220-22-2790 | ○ 家畜診療研修所 | 022-345-2239 |